

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記
令和6年度病害虫発生予報第1号(4月)

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-41-9513(ダイヤルイン)
ファックス 0561-63-7820
※ダイヤルイン番号が導入されましたのでご活用ください。

令和6年度病害虫発生予報第1号(4月)

令和6年4月3日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもちの発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	やや多い	県全域	前年5月下旬の発生量が多い 3月下旬の発生量は平年並	+ ±
	赤さび病	平年並	県全域	前年5月下旬の発生量は少ない 3月下旬調査で発病葉は確認していない 4月の降水量は平年並か多い 4月の気温は高い	- - ±~+ +
	赤かび病	やや多い	県全域	前年5月下旬の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並か多い	+ ±~+

・防除対策

[ムギ・うどんこ病]

前年のムギ類うどんこ病の発生量は、過去10年間と比較して最も多い状況でした。そのため、伝染源となる越冬菌量が多いと考えられます。また、4月2日の調査において複数地点で初発が確認されました。ほ場での発生状況に注意し、3月1日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第17号」を参考にして防除しましょう。

[ムギ・赤かび病]

本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号（コムギ、六条大麦）」を参考にしてください。

・留意事項

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）やイネ苗立枯細菌病は、出芽期以降の極端な高温や低温によって発生が助長されます。育苗時の温度管理などに気をつけましょう。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう（例：60℃、10分）。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下だと効果が劣るので注意しましょう。

スクミリングガイは水温15℃以上で活動を開始し、田植え後約3週間までの稚苗を食害します。防除対策等詳細は、本日発表の「スクミリングガイ情報第1号（水稻）」を参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	越年発病葉率はやや高い 4月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
ナシ	赤星病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	黒星病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	前年秋期の発生量はやや少ない 4月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	モモハモグリガ	平年並	県全域	前年夏の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	前年の発生量は多い 4月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	前年秋期の予察灯への誘殺数はやや多い チャバネアオカメムシの越冬成虫量は平年並	＋ ±

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

3月15日発表の「カンキツそうか病情報第1号」を参考に防除しましょう。

[ナシ・赤星病]

カナメフロアブル、セルカディスDフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

スコア顆粒水和剤、セルカディスDフロアブルなどで防除しましょう。

[ブドウ・黒とう病]

越冬伝染源となる棚に残った巻きひげは見つけ次第、園外へ持ち出して処分しましょう。キノンドーフロアブルやジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

本日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」を参照してください。

・留意事項

名古屋地方気象台3月28日発表の1か月予報によれば、気温は高いと予想されています。ウンシュウミカンのほ場におけるミカンハダニの発生状況に注意しましょう。

フジコナカイガラムシは、越冬幼虫が3月下旬頃から徐々に新芽や新梢に移動します。前年の発生が多かったカキほ場では、4月中にアブロード水和剤（使用時期：開花期まで）などで防除しましょう。

ナシヒメシンクイ越冬世代の成虫が一部地域のフェロモントラップに誘殺され始めています。成虫はモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期を逃さないように防除しましょう。

モモのせん孔細菌病対策として、春型枝病斑は伝染源になるので見つけ次第除去しましょう。詳細は「モモせん孔細菌病に対する豊橋式春型枝病斑早期切除技術」を参照してください。

（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/320268.pdf>）

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
タマネギ	べと病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の降水量は平年並か多い	± ±～+
トマト (施設)	灰色かび病	多い	県全域	3月下旬の発生量は多い 4月の日照時間は平年並か少ない	+ ±～+
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い	+
	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	すすかび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並か少ない	- ±～+
	ハダニ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並か少ない	- ±～+
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キュウリ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は平年並か少ない	+ ±～+
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

[タマネギ・ベと病]

発病株は周辺株だけでなく、周辺ほ場への伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し適切に処分しましょう。発生を確認した場合は、ベトファイター顆粒水和剤やオロンディスウルトラ SCなどで防除しましょう。また、降雨後は速やかに薬剤防除を行いましょう。

[トマト、ナス、キュウリ、イチゴ・灰色かび病]

1月30日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第16号」を参照してください。

[ナス・うどんこ病]

パレード20フロアブルやプロパティフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

キャベツでは、春～初夏はコナガが発生しやすい時期です。収穫残さは本種の発生源になるので、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。また、本種は薬剤抵抗性の発達が早いため、ローテーション防除を心がけましょう。

トマトでは、3月下旬のコナジラミ類の発生量が多い状況であり、気温の上昇に伴い更に増殖しやすくなります。コナジラミ類はトマト黄化葉巻病やトマト黄化病の原因となるウイルスを媒介するので、防除を徹底しましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

イチゴのハダニ類は、多発すると防除が困難になるので早めに防除しましょう。また、アザミウマ類の発生量が多いほ場があります。例年、発生量が増加する時期です。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平 年 並	平年値を中心にして 40%の度数に入る幅
	やや多い	平年並の外側 20%の度数に入る幅
	やや少ない	同上
	多 い	上記三者の外側 10%の度数に入る幅
	少 な い	同上
発生時期	平 年 並	平年値を中心にして前後 2 日以内
	やや早い	平年値より 3～5 日早い
	やや遅い	平年値より 3～5 日遅い
	早 い	平年値より 6 日以上早い
	遅 い	平年値より 6 日以上遅い

注) 平年値＝原則として直近 10 年間の平均値とする。

フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>)を参照してください。

参考

東海地方の 1 か月予報 (名古屋地方気象台 3 月 28 日発表)

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

〈予想される向こう 1 か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 80%です。2 週目は、高い確率 70%です。3～4 週目は、高い確率 50%です。

〈向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：10% 平年並：20% 高 い：70%

〔降 水 量〕 少ない：20% 平年並：40% 多 い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多 い：20%